

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	第1回吉川市産業振興会議
開 催 日 時	令和2年6月30日(火) 午前・午後 2時00分から 午前・午後 4時50分まで
開 催 場 所	吉川市役所301・302会議室
出席委員(者)氏名	<p>【産業振興会議委員】</p> <p>鈴木 努、生田 孝之、近藤 旭、柏瀬 浩史、太田 久年、飯箸 幸弘、田口 政博、石井 和也、河野 大士(代理)、池田 憲一、山崎 守(産業振興部長)</p> <p>【委員以外の出席者】</p> <p>丸尾 達(千葉大学大学院教授) ※オブザーバー 戸張 千束、加崎 洋一 ※農業関係者</p>
欠席委員(者)氏名	なし
担当課職員職氏名	<p>産業振興部 副部長 小林 千重 調整幹 堀川 昌昭 商工課 課長 染谷 憲市 商工課 課長補佐兼商工観光係長 深堀 邦彦 商工課 消費労政係長 會田 奈穂子</p>
会議次第と会議の公開又は非公開の別	<p>○第1回吉川市産業振興会議</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員の委嘱等について 3. 市長あいさつ 4. 会長あいさつ 5. 委員および事務局の紹介 6. 議題 <p><第一部></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 千葉大学作成「吉川市農業の新展開に関する提言書」について 千葉大学大学院教授 丸尾 達 氏 (2) 産業振興会議(異業種交流会)について 産業フェア(異業種交流会)開催予定日 令和3年2月20日(土) <p><第二部></p> <ol style="list-style-type: none"> (3) 新型コロナウイルス感染症感染拡大に係る市内事業者の状況について (4) 経済的困難な生徒への支援について

	<p>(5) その他 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金に係る補助事業について</p> <p>6. 閉会</p>
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	2人
会議資料の名称	<p>次第 (A4)</p> <p>資料1 : 吉川市農業の新展開に関する提言</p> <p>資料2-1 : 産業振興会議 (異業種交流会) について</p> <p>2-2 : 昨年度産業フェアチラシ※資料番号なし</p> <p>2-3 : 農業活性化検討会</p> <p>資料3 : セーフティーネット受付状況等について</p> <p>資料4-1 : 経済的困難な生徒への支援について、昨年度までの内容</p> <p>4-2 : 進学に係る補助制度について</p> <p>資料5 : 名簿</p> <p>その他 : プレミアム付商品券発行事業概要 対応事業支援補助金の募集開始のお知らせ</p>
会議録の作成方法	<p><input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録</p> <p><input type="checkbox"/> 要点記録</p>
会議録確認指定者	鈴木 努、生田 孝之
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
市長	<p>○第1回吉川市産業振興会議</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員の委嘱等について 3. 市長あいさつ <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大から緊急事態宣言を受け様々なイベントが中止になり、この産業振興会議も開くことが出来ない状態が続いたが、ようやく皆さんと顔を合わせて会議が出来る状況となつ</p>

た。一時期は感染者の情報などが市に届かない状況があったので、埼玉県知事や保健所にそのことを伝え、今では速やかに情報をもらえる状況となっている。まだ埼玉も感染者が十数名おり、東京も増えているので、今後も吉川においてまずは命を守るということを第一に、感染者の拡大の防止を図っていきたい。それと同時に職員に指示を出したのが次は生活支援、そして地域の経済の再生の後押しをすることをテーマにするということで、国の第1次補正についても生活困窮者、市内事業者に向けた支援を展開を図ろうと、6月議会も承認いただいたのでプレミアム付商品券をはじめ、市内の事業者に使っていただけるような、プラスになるような方向性を示した。そんな中で委員として参加いただいている事業者の中にもピンチをチャンスに変えるという、まさに素晴らしいチャレンジをしている事業者もあって、吉川の企業のチャレンジ精神として参考にしてほしい例となっていると思うので、また引き続き知恵をいただいて吉川市としても出来る支援をさせていただければと思っている。また本日は忙しい中、千葉大学の丸尾先生にお越しいただいた。初めての方もいるので少し歴史に触れさせてもらおうと、4年ほど前から吉川市は産業振興に力を入れようということで、どうあるべきか検討を続けてきた。そうした中で産業振興部という部を設置するところから始まり、そして部の柱となるような条例を作ろうと会長をはじめ皆さんの力を借りながら産業振興の条例、そして計画を作ることが出来た。吉川市産業振興条例の一番の特徴として、市内の3分の1を占める農業のしっかりとした活性化が吉川全体の産業の振興につながるということで、商工のみならず、農も含めた産業振興にしているという点がある。しかし前回の異業種交流会でいろいろな情報をいただく中、稲作中心のまちはなかなか六次産業化、農業を産業にしていくことは壁が高いという話も出ている。今日特別に参加をいただいた農業関係者はそれぞれの野菜でチャレンジをされていて、まさに吉川の六次産業化、農業の活性化の先頭に立っている農業者である。今日は丸尾先生、そして農業関係者を含めた形で異業種交流の中で、農業の振興というのがどうあるべきかと

委員（会長）

ということについて第1部で皆さんにお話ししていただけたらと思う。第2部では未来を語るだけではなくて、今の現状、コロナの現状下に於いて、私たちが何をすべきかについて皆さんに意見交換いただきたいと思っている。国の第2次補正も決まり、今後秋に向けてそのお金の使い道を考えていかなければいけない。子どもたち高齢者の命を守ると同時に、市内の商業の活性化といったところも力を入れていきたいと考えているので、ぜひその予算編成に向けても皆さんからご意見をいただければ。短い時間ではあるが皆さんから意見をいただく中でしっかりと進めてまいりたいと申し上げてあいさつとする。

4. 会長あいさつ

前回集まったのがもういつだったか忘れてしまったが、今回のかつてない危機に際して、この期間中市長をはじめ行政の皆さんには、不眠不休かわからないけれども、尽力されたことと本当にありがとうございます。われわれは事業者の代表として、この期間中市民であると同時にわれわれは経営者でありまして、非常にこの100日間いろんなことがありました。たぶん各事業所にとってもかつてないような体験やチャレンジをしてこなければならなかった、本当にいろいろ考える時間もありまして、昨日メールで引き続き会長をお願いしますということだったんですけど、この間、市長からも話しがあったように、吉川市産業振興条例というのは市民の幸福実感向上を目指すということが大きな重点になっていて、特徴としては行政・市民・事業者・勤労者の協働作業によるいろんな策定をしていくという位置づけだった。果たしてその協働作業って、この期間自分としては何もできなかったもので、協働出来ていたのかなと思う。作るまで4年もかかって作ったんですけど振興会議ってどんな役割だったんだろう、これからどういう、ここで私があまり話してしまうと時間が無くなっちゃうので、2部で議論していただきたいのだが、始めるにあたってこの会議の在り方、どういう位置づけ、どういう役割でやっていくのかっていうのも、ぜひ時間を2部の方で、事業者の本当の生の声が聞こ

えていたのかとか、われわれからの意見が通っていたのかとか、そういうのも含めて時間があれば、時間を作ってくださいという話しをしたんで、そこをざっくばらんに話していただければと思う。ぶっちゃけ言うと会長降りようかなと思ってたんですけど、一方でわれわれ振興会議のメンバーというのは、このコロナ期間中会えない中でも、SNSとかオンラインとかラインとかで非常に密に連絡を取りあっていて、お互いの経営の状況だとか悩みとかを共有していた。残念ながらこういう会議の場を持つことは出来なかったが、そろそろいいかなあって思ったらこのメンバーがもう少しいっしょにやろうよということで、支えてもらえたということなんで引き受けることにしました。決して市に依頼されたというわけではなく、今回のことによつていろんな団体の長がいますんで、連携が図れたかなって、逆に生まれたかなと思って、もう一年ですね、もう一年か二年かわかんないですけれども、引き続きやっていこうかなって思いますのでよろしくお願い致します。

5. 委員および事務局の紹介

太田会長より、会議録確認指定者として鈴木委員、生田委員を指名。各委員了承。

6. 議題（公開）

<第一部>

(1) 千葉大学作成「吉川市農業の新展開に関する提言書」について
千葉大学大学院教授 丸尾 達 氏

資料1及びプロジェクターを使用しての講話

農業関係者

千葉大学にも伺って実際に見させてもらった。施設園芸はこれからますます魅力的になっていく。稲作よりも収益率がよいため、吉川でもこれまでいろいろなことをやってきたが、なかなか定着しなかつ

教授	<p>た。イチゴも30年前からやっているが長続きしなかったので、定着するようなものを見つけられたらと考えている。</p> <p>イチゴに取り組んだということだが、日本のイチゴは世界で一番の技術と言われている。現在千葉大学はアメリカの企業ともイチゴに関する共同研究をしているが、そのくらい評価が高い。イチゴ作りで何が一番大変かという苗づくりである。いい苗を作るのは大変。私たちは種からまいて苗を作る技術も開発している。それだと無病で強く安心な苗を簡単に作ることができる。どんどん技術開発が進んでいるので積極的に導入することが定着につながる。いきなりやるのは難しいので、モデル的なものから開発エリアではじめて、それを広げていく方法がいいのでは。そういったことについても、またぜひ千葉大学に来てもらえたらと思う。</p>
委員	<p>先生が今、苗づくりが大変で定着しなかったのではないかということだが、実際に吉川でイチゴが定着しなかった理由はなにか、グラウンドなのか生産量なのか、生産者から聞かせてほしい。</p>
農業関係者	<p>自分が小さい頃の話なので詳しいことはわからない。</p>
委員	<p>近隣の越谷ではイチゴが定着しているので、そことの違いはどこにあったのか。</p>
教授	<p>越谷は清掃工場を中心にモデル的な施設園芸を作ったことが大きかった。イチゴは収益性が高いので、比較的簡単な施設で出荷ができる。一番いいのは観光農園のようなもの。近隣の観光農園でも10アール当たり1千万円くらいの売上があるところが結構ある。観光農園だと、出荷の必要がなく収穫はお客さんがやってくれるので、非常に収益性が高い。それをやるのに重要なことはアクセスがいいことと、ある程度まとまって、数件のイチゴ農家が団地のように数件並んであ</p>

市長	<p>るということ。一つのハウスでイチゴがなくなれば隣のハウスへ移動といった形になればいい。栃木などのイチゴ観光農園はだいたいそういう戦略になっているので、見に行くときどのような要件が必要かわかると思う。</p> <p>吉川の行政として何ができるのかということの質問で、三輪野江のスマートインター周辺の地区で常総市と同じようなことができないか。農業パークを作り観光農園的な要素を入れ観光資源にしたいと考えているが、それまでには地権者への説明や、設備の建設も含めると早くて3年はかかると思う。そこで市民や青年でチャレンジ精神のあるやる気のある農家に、見てもらえるような1・2棟のモデル的な施設を作りたいと思っている。そこまではイメージできているのだが、もしそこで自分がやってみたいという人が現れたときに壁になるのは何か、行政として何を支援すればその人が壁を越えて一步進んだ施設園芸に入っていけるのか、行政として何ができるのか先生の意見が聞きたい。</p>
教授	<p>今後はこれまでやったことのない品目をやる方が、吉川でも増えていくのではないかと考えているが、それには短期・中期的な研修をすることが重要になってくる。例えば施設を建設している間などにどこかで研修するということが重要であり、分かった上ではじめればうまく回せるようになる。そのあとは病虫害や栽培のコツなどのサポートができるコンサルなどが重要になってくる。それさえあれば比較的短時間にいいものができるようになる。実際植物工場の事業は全国各地で取り組んでいるが、異業種からやってきたという方が結構いた。そういう方々がやった方が逆に成功している事例もある。それはいろんな説明を受けながら、サポートを受けながらしっかり学ぶということが出来れば、大きなリスクなしに植物工場を出来るようになる。</p>
市長	<p>農業関係者が、「ぶどうをやるぞ」と思ったら、まず何があればいい</p>

<p>農業関係者</p>	<p>いのか、やはり先生が言ったような研修できる場所や学べる機会が重要になってくるのか。</p> <p>やはり一番必要なことは作るための技術。天候にも左右されるし、こうやればこう育つということは勉強できるが、それが実際に育てていくとなかなかその通りにはいかなくて役に立たない。野菜の育て方というのは情報としていくらでもあるが、実際に育ててみて自分で触って感じないとうまく作れないもので、絶大な情報量を持った方から、どれだけ技術を盗むかが重要だと思う。</p>
<p>教授</p>	<p>今の時代、技術を盗まなくても、いっしょに野菜を作ってほしいという人がたくさんいる。特にこういうエリアは消費地に近いので、各地に大規模に生産されて規模を拡大したいという方がたくさんいる。そういう方にとって魅力的な場所だと思うので、どういうやり方がいいのか、そういう方々を誘致してやるのか、一緒にやるのかいろんなやり方があると思うが、そんな中で出来るだけ独自のものをやるのがいいと思う。誘致することも可能だと考える。</p>
<p>委員（会長）</p>	<p>テレビでイオンが施設の上の階でレタスを栽培して、下の階でそれを売っているというのを見たことがある。企業がそのようになっていく流れ的なところは今後どんな感じなのか。</p>
<p>教授</p>	<p>10年たったら日本の農家の方は3分の1以下になる。これは現実で避けられない状況。そこに新しい人が来るかという来ない。せめて事業収入1千万円くらいないと来ない。結果売るのが調達できなくて困るようになる。これまではイオンでもレタス丸々売っていたが、今後はカットしてパックされた状態で売ようになる。アメリカや海外を見ても徐々にそうなっているが、それには栽培と加工がセットになった大きな施設が必要になってくる。遠くから運ぶよりも近くで作って売った方がいいわけで、そういうことを考えるとイ</p>

	<p>オンのように自分のところで作ろうということになってくる。イオンは久喜に3ヘクタールの大きなトマト農場を作っている。それは圏央道を使ってあちこち運べるから有利なわけで、今後はどこで作ってどのように運んで供給していこうかということをしかりと考えながら作ることが重要で、10年先になって困ってからでは遅いので今から準備していつているということ。この流れは当面変わらないので、その流れをいち早くつかんで事業に結び付けていくことがポイントとなっていく。</p>
<p>農業関係者</p>	<p>先生のおっしゃったことは、私も従業員によく言っていることなのですが、私のところは吉川市と隣の越谷市を中心に販売額の約7割。若手の従業員がパートも含めて11人から12人。販売戦略としては規模拡大の一途を目指していて、園芸一本です。父親から譲り受けた土地を全部畑にして、現在遊休農地などを2ヘクタールくらい借りているがまだまだ足りない。市が畑をまとめてくれればいくらでも借りたいと思っているが、先生のお話し通り吉川は田んぼが中心なので畑があちこちに点在していて、園芸をやっていくにはなかなかやりにくい土地柄です。田んぼは行政が集約して大規模にできると思うが、畑の場合はそれ以前の問題となってくる。ただ、自分が常日頃思っていたことを先生に説明していただいたようでとても感銘を受けた。</p>
<p>市長</p>	<p>休耕田を借りようとしたときに、畑にすると貸さないということもあるのか。</p>
<p>農業関係者</p>	<p>田んぼを借りるのではなく、畑をやっていたがやめざるを得なくなったというケースが、農業人口が減っていることもあってかなり出てくる。畑を放置するとどんどん荒れてしまうためそこを借りている。田んぼを埋めるためにお金もかかる。</p>
<p>教授</p>	<p>私の実家はお茶農家をやっていた。お茶もだいぶ安くなって10ア</p>

	<p>ールで10万円ちょっとしか上がらない。今は貸して代わりにやってもらっているが、いずれ返されるだろうと思っている。同じように今貸しているけれども返されて困ってしまう人がこれから続出してくる。5年、10年の間にそうなる。そうすると農地はとんでもないことになる可能性がある。潜在的な耕作放棄地はかなりあるはずなので、先を読んで洗い出しておかないといけない。そういったものをどのように集約していくのかを考えないと、今は法的な難しさもあるかもしれないが日本全体がそうなってくるとクリアされると思うので、今から動き出しておかないといけない。</p>
委員	<p>(2) 産業振興会議（異業種交流会）について 資料2-1～2-3を事務局より説明</p> <p>農業活性化検討委員会について、市が中心となって農業のことを考えていくラインのようなものを作ってくれていると感じているが、一番気になるのは農業に携わる現場の方のモチベーション。他の委員から話しがあったと思うが、この中心メンバーに熱意のあるものがあるのかどうか、周りがビジョンとして一生懸命支えてというか、持ち上げてやろうよと言っても、一番頑張るべき中心メンバーのテンションだったり、気持ちがついていっているのかが気になるので聞かせてほしい。</p>
事務局	<p>先ほど説明した話は、やる気のある若手農業者から出た話し。メンバーはやる気のある方が入っている。まだ始まっていない段階からすでにいろいろな意見が出ているのは、やる気のある若手農業者から直接聞いた話しである。</p>
委員	<p>なかなかこういう場はないと思うので、そういう方が出てきていただいて生の声を聴かせてもらえたらと思う。形にこだわるわけではないので、本当の想いを聞けたところで、こちら側と議題として意見を</p>

<p>委員（会長）</p>	<p>出し合っというムードが出てくると思うので、そういうこと であればぜひお願いしたいと考えている。</p> <p>今年度の産業フェア開催の方向性という部分で、私の団体は県内で いろんなイベントなど企画している。だいたい1年先までは集まれない パターンと、集まれるパターンの2通り考えているが、会場の関係 でソニックスティなんかはまだ借りることができない。そういう場合 にセキュリティ上リモートでの会議が難しい状況もありますがとい うのもよくわかんなくて、どうしてそれができないのか。コロナウイ ルス感染症感染拡大により情報共有が難しい今だからこそ、皆さんに お集まりいただき開催させていただきますというの、ちょっとよく わからない。また来年の2月にコロナウイルスが同じような状況とな り集まれなくなった場合、準備するのであればリアルじゃなく2通り の方法としてオンラインで開催する方法だとか考えてやった方がいい のではないかと、そうすることは出来ないのか。</p>
<p>市長</p>	<p>イベントが中止になる可能性はあるので考えなければいけないと 思うが、イベントをリモートで開催して産業振興が伝わるのだら うか、労力をかけるべきかどうかこれから皆さんからご意見をいた だきながら進めていきたい。ただし開催できるとした場合の期日設 定だとかは早めにやらなければならないとしたところで、11月の市 民まつりではできないので2月に開催したらどうかということ。</p>
<p>委員（会長）</p>	<p>開催することはいいのだが、ずっとリアルで開催する方向で進 めてきて、またコロナが出ました、じゃ中止にしましたってことにな ってしまうのか。そういうときの代替案だとかを考えなくていいの か。</p>
<p>市長</p>	<p>当然考えるが、今は11月に考えていたものを、2月にしました という話なので、2月のできない可能性がある場合の他のやり方は これから話し合っていくこと。</p>

	<p>もう一点、この産業振興会議のあり方について、この後意見交換が出来れば良いと考えている。やはり緊急事態宣言が出されている中集まるのは危険だったので、なかなか開催が出来なかった。それで今回このタイミングであれば顔を合わせた中で話し合いができるのではないかとということで開催させていただいた。</p> <p><第二部></p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症感染拡大に係る市内事業者の状況について</p> <p>資料3を事務局から説明。</p> <p>委員 セーフティネットなど市で認定した後の状況は把握できているのか。認定を受けた方のうちどのくらいが実際にお金を借りられたのか。</p> <p>委員(部長) 5月31日現在の保証の承諾件数が147件で実際に融資を受けている。</p> <p>委員 147件の方は融資を受けられたが、それ以外の方はお金を借りたいけど借りれないという状況になっているのではないかと、そういう方への支援や状況の調査はしているのか。</p> <p>委員(部長) 調査は3月17日に1回目の調査を行い、売上高の減少状況、支援についての自由意見、当時は学校が休校になるということで、従業員の休業に対応しているかなどを聞いている。同じ内容で4月中旬に2回目の調査を行った。今回新型コロナウイルス感染症対応で新たな取り組みをした事業者に上限10万円の補助金、例えば亚克力板の設置や飛沫防止策などへの補助金の案内を出すのに合わせて3回目の調査を行ったところ。3回目はリモート・テレワークしているか、雇用状況などを新たに調査項目に加えて6月19日に郵送している。</p>
--	--

委員	<p>228社と88社と認定している中で保証協会から承認されているのは数社、他の借りてない方は、まだ借りていないだけなのか申し込んだけれども借りられなかったのか、そこを把握しているのか。</p>
委員（部長）	<p>そこまでの調査はしていない。実際に無利子無担保の申込みが5月の連休明けから民間でもできるようになった。そういう対応も考えながら、認定を受けつつその後どういう方向でいくか、今までの借入れから借り換えとか、そういうところはそれぞれ担当されている金融機関と相談しているという話も聞いているので、最終的には市の認定件数と実行件数の差になっているわけで、事業所を市が融資できるかどうかというところもあるので、把握しておくべきであった。</p>
市長	<p>委員は実際に借りられなかったという例を聞いているのだろうか。市で認定されているのに借りられていない事例はあるのだろうか。</p>
委員	<p>耳に入ってきている。審査状況などもあるのはわかっているが、商工課として認定書を出してそれで終わりではなくて、出したのであればその後のフォローもするのが商工課なのではと考える。</p>
委員	<p>銀行の状況として、保証協会の審査中でまだ降りていない事例は、総件数の内2割くらい。審査が終わったもので承認が下りなかったものは5%未満なので、ほぼ出ている状況。出なかった理由は他県をまたいで事業をしている事業者が、すでに他県で申請済みだったというものが1件。過去の融資が足かせとなって承認が下りなかったものが1件。公庫と両方出していて公庫で承認が下りたので取り下げたというものが1件、合計3件といった状況。</p>
市長	<p>そうした状況を考えると、借りられなかった事例を調査するよりも、各経済団体に上がってきた声に対応するという方が現実的</p>

	<p>なのでは。</p>
委員	<p>これまでの銀行の事例では、相当な事情がない限り承認が下りないということは考えられない。</p>
市長	<p>市としては各団体から上がってきた声に対応していくことにする。</p>
委員（部長）	<p>認定はとりあえず受けておいて、借りるかどうかはこれから考えるという事業者がいるということも聞いている。借りずにもう少し頑張れるという事業者も数に含まれている。</p>
委員（会長）	<p>もちろん資金繰りが第一だが、借りた借りないだけでなくそれ以外に、困っているという声が、市にも挙がってきていない、各団体にも挙がってきていない、融資は結局返さなければならないわけで、躊躇する事業者もいる。利息がゼロでも元本は返さなければいけないので、事業の見通しがなければ借りてもな、という事業者もいる。見通しが立たないと融資を受けても返せるかなとなって不安があって融資を受けない、経営者の声には出せない悩みがいっぱいある。それを拾っていく必要がある。人が足りないだとか、事業が足りないだとか、そういうフォローをして、もちろん資金は必要だが、そのあとの困っている事業者が困っていることを拾い上げて解決策を見つけていくのが、産業振興会議の役割だと思っている。これで終わりではなく、これからもどんどん悪くなっていくという業種もあると思う。事業形態も変わっていくし、需要が変わっていくので、今のままではこれからの見通しが立たないという事業者も出てくるはず。そういうものをどう新しく転換していくのかを、他の自治体ではビジネスマッチングだとかやっているが、そこから踏み込んだアイデアを事業者から拾っていかなければ、行政だけでは難しい。</p>
市長	<p>行政だけがアイデアを出すというものではないと思うし、この産業</p>

	<p>振興会議の皆さんが調査をするということも違うと思う。調査は市が行うべきでこれまで3回の調査をしている。そこでの回答率がよくて20%くらいしか返ってこないが、その状況でさらに行政が個々に事業所を訪問して意見を聞けるのかというと、コロナの状況下では現実的ではない。故に商工会とか青年会議所とか農業青年会議所、あるいは同友会などの経済団体が会員からの意見をまとめてもらいたい。委員の皆さんはそれぞれが代表の方ばかりなので、それぞれが感じる現場の声として、行政としてこんな支援が必要ではないかといった提言がでてくると、会議としての意見交換としていいのではないかと考えている。</p>
<p>委員（部長）</p>	<p>資金繰り以外のところで、市ができる支援策をいろいろ考えているところで、ものづくりの国の補助金があるのでそれに上乗せする等いろいろ考えてはいるが、実際の声というのはなかなか難しい。</p>
<p>委員（会長）</p>	<p>全般的に声を上げている人は、飲食業はヤバイと言っている。急激に落ちたので。逆にそうでもないと言っている人が結構多くて、他の自治体でも多い。本当にそうなのか、言えてる人しか言っていない気がする。本当に言えない人は言っていないという感じに、そこをほじくり返すって話しもあるが、私も印象的に吉川の人困っていないのかなと思った。そこをいろいろ他の業種とかあつたいくつかの事例で、やっぱり継続できないので従業員を数十名解雇しますといった事例も吉川の事業者でいる。何とかできなかったのかなと、相談とか、従業員を引き受けたりは出来ないが、何とかできなかったのかなと思った。そういうこともあって、コロナの状況下で会いに行けなかったところもあったが残念だったなと思った。もし解雇された従業員が市内在住の方で職を失っていたらどうだったんだろうと思う。別に悪いってわけじゃないんですけども、どうしてもいろいろな情報を見ると、子どもたちや、市の特性として子どもたちをなんとかしようとか、こうしようとか言ってただけけれども、私の立場から言わせれば子</p>

<p>委員（部長）</p>	<p>どもたちを育てている親はどうなるんだと、そこで働いている人たち、その人たちに給料を払っている事業者が倒れたら、本当の市民のなんでしたっけ幸福実感なんて追及できないのではないか。そういうジレンマがあった。</p> <p>一回目の調査の時に国の制度の内容を全部含めて市内事業所の皆さんに送った。雇用調整助成金や持続化給付金などを含めて、お知らせをさせてもらったが、手続きがめんどくさくて雇用者を切ってしまったなどの話しは耳にしていた。</p>
<p>市長</p>	<p>会長、そこもう少し具体的な話しが欲しい。飲食業などはその都度状況が市に届いたので、アイデアを出し合って子どもの弁当配布など考えて、市内事業者から手を挙げてもらってwinwin循環が作れた。飲食以外もかなりの数の事業者と会って意見交換をしたが、市がダイレクトに支援できることが少なくて難しかった。今の話しのように失業したらどうするんだと言われたら、税収に跳ね返ってくるのでなるべく市内の雇用が減らないようにしたいが、その人たちにこの数カ月で市が何を出来たんだろうと具体的な、これが足りないとかあれば聞かせてほしい。</p>
<p>委員（会長）</p>	<p>市の施策って例えばこの新型コロナウイルス感染症対応事業支援補助金の10万円支給しますって、確かに10万円で助かったって人もいるのかもしれないが、たかが知れている。50%減少した方への持続化給付金などは、ああいうのは感覚的にスピーディーにパパッと、それは国の話しだがスピーディーパパッと配ればいいだけの話しで、10万円が欲しいわけではない。市にこういうアイデアがいいんじゃないというのは、他の委員の方がいっぱい持っていて、私自身はそういうアイデアはない。市に何かやってくれと言っているのではなく、そういう場を設けたり、そういうコミュニティを保って、連携を密に取って「状況はどうですか」とか、うちに聞きに来たっていいじ</p>

委員	<p>やないですか。一回も来てないですよ。</p> <p>コミュニケーションの問題で、現場の声というか、自分に置き換えればいろいろとリサーチして、こういう声が上がっているとか、それをまとめて発信することもできるだろうし、個別に意見を聞いてもそれが本当の方向性なのか、たぶんそうではないと思うので、自分は商業者で卸売業やってるので、関連する人であれば話も聞けると思う。例えば工業的な方、同友会的な方とかそういうのがあるから、ある意味必要なんじゃないかと、ある程度意見を取りまとめる力がある人たちに対して話しをして解決する方向性の方がよかったのではないかなと正直思う。出来てるか出来てないかの問題ではなくて、市として頑張っって自分たちで考えてやってきたというのはそれはそれでいいと思うが、そこに接点があっってみんなで産業振興会議って要するに吉川の産業どうしていこうか、先を見る部分もあるし今は現実を見なきゃいけないなという中、その現実がいい方向なのか悪い方向なのか、今流れている空気だったりをしっかりと感じ取ってもらえているのだろうか、そこがとても不安なわけで、自分一人が発信してもしようがないので、接点がない方の空気はどうなんだろう、例えば製造業の方どうなんだろう、工業の方どうなんだろう、そこは見えないわけで、そういうところも知りたかった。そういうことをやるための場なのではないのかなということは思った。そこがなかったっっていうのが非常にコロナウイルスっっていう特異な状況ではあるけれども、そんななかで一番やらなければいけなかった会議だっただのではないのかなってところ。そこが一番思っていたところ。</p>
市長	<p>市が、ここが見れてなかった、これが抜けていたとか具体的なものがあればすごくイメージがしやすいが、この振興会議が開かれなかったじゃないかとだけ言われると、会議至上主義と感じる。コロナでそもそも会議も避けなければならない状況だっただ。</p>

<p>委員</p>	<p>例えば7月から始まる新型コロナウイルス感染症対応事業支援補助金っていうのが、本当にフィットしているのかどうかってところは確認されているか。10万円の補助というものが、今の事業者が欲しがっている、今必要なものなのかどうかというところに、しっかり裏打ちというか、それがあって出てきたものなのかどうかを知りたい。一律給付をやっている市町村もあるが、それがいいのかこれがいいのかってところで、私がもし意見聞かれたとしたら「一律給付でお願いします」と言ってると思う。吉川市はこれでいきますとなったときに、やっぱりセッションしたいなと思う。</p>
<p>市長</p>	<p>今回の補助金は未来へというよりは遡って、この数カ月でコロナ対応した事業者にとにかく策を打とうというところが一番だった。いっせいにすべて給付するというばらまき方法はやめようという方針を市では持っている。国の補助金であるが税金である以上、第1次、第2次の補助金もそうした方針でしっかりジャッジしなければいけないと考えている。例えば水道料金を全部減免するという市町村があるが、吉川市は全部減免するということはやらない。水道事業の持続可能性を考えると生活困窮で困っている部分の人に充てるとしている。そういう意味で7月からの10万円も一律事業者全部ではなく、この数カ月でこういうところに苦勞してコロナ対応きたところにまず充てるということ。今後2次補正予算ではさらに大きな金額が降りてくる。これは国も未来に向けた新様式に対しても使える資金だとうたっているなのでこのタイミングで産業振興会議を開かせてもらって、ようやく顔を見て今後どんなことが必要か話しができるという流れだ。まずは命を守るということを第一に右往左往していた中で産業振興会議を開くということは難しかったと思っている。</p>
<p>委員（会長）</p>	<p>べつに会議やってくれて言ってるわけではなく、ちょっと解離妄想的だったかなと思ったということ。今までは市民生活と安全対策がまずは第一だと、事業者は置き去りにはしてないけど優先したのは子</p>

市長	どもたちだと。 子どもだけではなく高齢者だとか、というか「市民の命が一番だ」といった。
委員（会長）	子どもって聞くと世界中を敵に回しちゃうから言わないんだけど、自分たちは事業者なので、経営者も悩んでるんだということ。
委員（部長）	個々に商工会とか打ち合わせはさせてもらってきたが、1次の事業案を決める時に委員の皆さんに実際に直接伺って、話しを聞けなかったことは反省している。1次の内容については、実際にチャレンジした事業者には補助金を出そうと考えたもの。給付をやった自治体もあったがそういったものをすべて確認した上で決定させていただいたということでご理解をいただければと思う。
委員	工業は消費者というよりはBtoBで仕事をしているので、業種によって落ちる落ちないは明確に分かれている。うちは特にコロナだから減っているということは明確にはない。そんな中で産業振興会議で全部の意見を吸い上げてほしいというのなら、問いかけをしてくれればこちらも他の事業者に問いかけが出来たと思うが、不透明なまま何もわからないまま来たので、各社雇用のところとか敏感なところもあるので、教えてくれるかというと教えてくれない情報もある。一概にぱっと聞きにくい情報でもあって、行政や団体の長がやる、やっても出来ないかもしれないが、そのくらい個々に聞くということは本当に親しい間柄だったらできるかもしれないが、聞くのは難しいと思う。逆にこれをやるから意見を吸い上げてくださいよって問いかけてくれれば、こちらもやろうという気にはなったと思う。それがなかったのでおそらく委員のどなたも問いかけたりはしてこなかったと思う。飲食の吉川先ペイは、経営者の視点からすると違うのかなと感じているので、意見を言える場所があれば言えたのになと思っている。

市長	<p>先ペイは市の事業ではない。市が広報等をバックアップした形。</p>
委員（会長）	<p>会議またやりますと言われて、議題を聞いたときに、千葉大の先生が悪いわけではないのだが、日常に戻ってきたから集まりますと言われて、なんだよ日常に戻ってきたからやるのかよと思ってしまった。緊急の時はいらぬのかなと。そろそろ落ち着いてきたので集まってくださいと言われて、そんなもんかと。農業が悪いと言ってるわけではなく、私たちとしては資金繰りの話しや事業者の話しがずーっと溜まっているのに、農業、それ今やる話しですかって逆に思ってしまった。もっと困っていることがあるだろう、こういう議題でやろうと思ってますとか何もなくて、ただ集まってくださいって言われて皆さんからどうしますって聞かれて、何の話しで集まるんですかってことになってしまうので、もっと事前にテーマにしても絞って、これをやろうとか、まずはコロナ一発明けなのにあれもこれもそれも承認してくださいね、みたいな話しで呼ばれちゃ敵わないよって話しです。</p>
委員	<p>みんなが言わんとしていることは、こういうこと。コロナでみんな大変であり、ひとりひとりがみんな大変なんだけれども、考えると産業振興会議というところに私たちは出ている。自分のこともそうだけれども、吉川全体のことを考えてわれわれ何か今動かなければいけないのではないかとみんな考えていた。じゃあ集まって何か吉川のために出来ること考えようと言って呼びかけると今集まれませんのでダメですよってことだった。いやそんな場合ではないだろうとテレワーク、電話、なんでもいい。とにかくみんなで会議をやって吉川のために出来ること考えましょうとみんな個々に考えた。だからなにも対応がなかったときに、おいおい自分たちこんないろいろな考えてるんだぜ、なにかやろうよって言いたかった。それをずーっと3カ月も4カ月も経って、6次産業化って話からスタートかよ、そうじゃねえだろうって言ってるわけです。みんなそう思っていた。</p>

<p>市長</p>	<p>皆さんの気持ちはよくわかりました。一度仕切り直しさせてもらって、こういう事態になった時の対応の仕方について、今回の反省も含めて構築し直す。ここまでコロナ対応に追われている部分もあったので、次の補助金の使い方については産業振興の委員のメンバーのトンがった意見や現場から拾い上げてもらった意見をミックスしながら計画していくということで了解いただけたらと思います。</p>
<p>委員（部長）</p>	<p>直接何う形になってしまうかもしれないが。</p>
<p>委員（会長）</p>	<p>今これだけネットワークがあれば、ネットだとか、今どうなってますとかコミュニケーション取って情報を集めてから、会議はそれからでいい。</p>
<p>委員</p>	<p>広報浦安と草加を持ってきたのだが、新型コロナウイルス感染症に関わる持続化給付金などがリストとして、浦安はこんなことやってますよ、草加はこんなことやってますよとか、草加は5月20日ごろに発行している。この違いはなんでだろうと考えたときに草加は商工会議所が非常に強いところがあって、吉川は商工会とあまり連携が図れていなかったのかなと思うところがあって、吉川市の広報ももらってきたがなかなかそういったことが書かれてないので、そういう意味で事業者・経営者の目線に立った広報ではないなと思った。</p>
<p>市長</p>	<p>草加は5月の時点でどのような内容を掲載しているのか。</p>
<p>委員</p>	<p>草加市独自緊急経済対策、商業者向け持続化給付金、セーフティネット保証利用支援補助金などを5月20日の広報に掲載している。</p>
<p>委員</p>	<p>国や県がいろんな補助金出したり、支援金出したりしているが、そういう情報が全く吉川はない。</p>

<p>委員（部長）</p>	<p>6月1日の広報には一覧表で個人向けと事業者向けというものを作り、そこに持続化給付金などを掲載している。新しいメニューは7月からなので、7月1日の広報に見開きで掲載している。</p>
<p>委員</p>	<p>持続化給付金のコロナ用があるが、川口市の商工会議所から依頼が来ているが、初回の会議にアンケートを取ったところ、20社限定でやったら40社来るってことになった。専門家派遣を増やしてくれと話しも来ているので、そういうところも事業者というのは気にしているし、新型コロナの特例のリスケジュールなんかも、今度国の方があのような話しが来ているので、そういうことについても専門家を派遣してやらないとできない、というかそれをするによって企業が10年後20年後も存続するから今やらせてくれという話しなので、だから今企業にそういう支援をしないとダメだということになってしまう。それが出来るには市の方から派遣をしてもらおうとか、商工会と連携して派遣してもらおうとか、そういう形でないと企業に支援者を派遣できない。</p>
<p>委員（部長）</p>	<p>先ほどからの広報の話のだが、3月の17日の時点で国のメニューを含めた、その時点でこうなるであろうというものを、市内1200事業所に向け商工会、テクノポリス・工専工業会を通して配布している。アンケート調査と合わせて。4月17日、6月19日にも直接事業者配布している。それから6月広報には主な支援の相談窓口というの見開き掲載して、7月広報には今回の1次補正で実施する新たなメニューの内容を掲載している。それ以外に個別に出して案内をしている。他市とそんなに差はないものと考えている。支援策が早かったのは、草加市や三郷市、越谷市が若干早かったが、吉川市は6月議会を経て7月から開始する。先の3市以外は近隣も同じような時期になっていると思っている。</p>

委員	農業の方にも状況を聞いてみたい。
農業関係者	<p>うちは対スーパーへの直卸しが売り上げの7・8割から9割近くなっているのですが、スーパー業界はコロナ期間中バブルに近い対前年の売上、約120パーセントから140、独立店では150パーセントくらい伸びているところも多々あるようだ。これがカット野菜、特にファミレスのカット野菜を卸している農業者はきついと思うが、農業に関して私個人の意見ではおそらく20パーセントくらいの増になっているのではないかと思う。ものすごく差はあると思うが私の農業関係のネットワークでは、頑張っている農家は伸びている。</p>
委員	<p>うちは昔ながらの家族経営で、出荷先のメインも農協なので、例年通りで、いつも通り出荷して、今年はずっとよりは高いという印象。特に売り上げが下がったということはなく、ほぼ例年通りである。</p>
農業関係者	<p>農業に関してはコロナの影響はそれほどなかった。直売所の売上も例年より20パーセントから40パーセントほど上がったが、母体となる農協の運営がかなり規制されていたので、周りの状況などの情報はほとんど入ってこなかった。そのために顔を合わせれば不安な話しは出ていたが、金銭的な面に関しては特に不安を感じるような減収はなかった。</p>
委員	<p>テレビであおるほど農業は被害を受けていないということか。</p>
市長	<p>市内の花き農家も回ったが、お祝い花を専門としているところは9割減で、ホームセンター等に出しているところは逆に上がっている。同じ業種でも全然違う状況。</p>
農業関係者	<p>吉川でも生産者は直接販売が多いので、市場の影響をそれほど受けなかった。市場の状況を見ていたが市場では安いのにお店では高いと</p>

<p>委員</p>	<p>いう状況が、ここ2カ月間多くみられた。だから市場に出している地方の農家は苦しんだ方がいるかもしれないが、吉川の農業は都市近郊型で直接販売者に届ける方が多いので、そのようなあおりは受けなかった。</p> <p>隣の松伏町では農業者が持続化給付金の対象にならないので、10万円一律支給という話しが新聞に載っていたが、吉川の場合はそんなに影響を受けていないという話で、市は意見を集約してたということか。</p>
<p>委員（部長）</p>	<p>農家を回って聞いていた。先ほどの花き農家は持続化給付金の申請をしている。</p>
<p>市長</p>	<p>花き農家の商品を職員向けに販売を受け付けたりと協力もした。</p> <p>7月補正がこれから出てくるが、7月の後半の臨時議会を経て国からの交付金の使い方を決定していくので、今日のように集まる必要はないが、メールでもいいのでこういった政策を打つべきだ、このような声があるなど具体的な意見をいただければ、産業振興会議としてまとめ、それを予算に反映する。</p>
<p>委員（会長）</p>	<p>私たちは予算のことはわかっていないので、予算に対してどうこうというのはわからない。予算がいくらでもあればいろんなことが出来るわけで、市のお金がどのくらいあって、こんなことをすればこんな効果があるのではとやればいいが、私たち専門は酒屋だったり設計屋だったりするので、それはこういう風にしたらこうなってこうなんじゃないの、例えば固定資産税減免しますとかあるけれども、吉川の事業者で固定資産税減免されて喜ぶ事業所どのくらいあるのかなど。だいたい皆さん家賃で借りてるんじゃないですか。来月の家賃が払えないからどうしようか困ってるって事業者結構多いはず。みんなテナントが多い。だから家賃が大きいのしかかってくる。それを市でどう</p>

委員（部長）	<p>こうしろって言っているわけではなく、国でやる補助を後押しするとか、周知をするとかでもいいし、実際に困っていることってこういうことなのではないか。</p> <p>そういった意見をメールで出していただければ検討するし、必要であれば直接伺って話しを聞くようにする。あらためて委員には後日メールを出す。</p>
市長	<p>各経済団体からもぜひ声を挙げてもらえれば、市で出来ることと国で対応することを整理して、予算に反映できるか政策に反映できるか検討していく。</p>
委員	<p>（４）経済的困難な生徒への支援について 事務局より資料４－１、４－２を説明。</p> <p>埼玉県補助制度についての３ページ、奨学金の貸与については銀行が県の教育局から依頼を受けてやっているもので、県の教育局と連携して高校生に対して、銀行は入学一時金や授業料などを融資し、県はそれに係る利息を負担しているもの。共同事業として２００７年から行っている制度で、今現在２５，０００人が利用している。今年はコロナの影響もあり募集期間を長くしているが、例年よりも申し込みが現在の早い段階で例年より多いと感じている。埼玉県の家庭の高校生で、通う高校は県内・県外問わないもの。</p>
市長	<p>だいぶ長く議論しているがなかなかまとまらない議題。きっかけは事業所を回る中である社長が産業振興には人材育成が必要だと、そして社長さんたちもそういう子どもたちに出資したいという話から始まっている。これまでも国や県などでさまざまなメニューがある中で、市が同じようなメニューを立ち上げることが産業振興になるのかなど話し合ってきた。既存の制度を使いながら人材育成はそれとは違</p>

委員	<p>う観点からアプローチが市としても、あるいは事業者としてもあるのではないかという議論が毎回あるがまとまらない。</p> <p>現在の奨学金制度は、最低限の教育は受けないという子どもたちが対象となってくる感じがある。ひとり親の方とか多いのが実態。人材育成という観点では、吉川市を引っ張る人材とか、埼玉県を引っ張る人材とか、そういう人材のために支援していかなければいけないのかと感じている。ちょうどいいアイデアとしてはクラウドファンディングがある。先ほどの寄付型というものもあるが、志が高い学生や鍛えれば伸びる若い人のスキルアップを含めてこういう支援をしようと、ゆくゆくは吉川市内の企業で働いてもらうという流れが作れるのであれば、吉川市単位でも出来ると思う。クラウドファンディングはどちらかという小規模な資金調達スキムですので、もともとが共助という狙いで成り立っている枠組みなので、昨年までの議事録で財団でそういうことをすると言う議論もあったようだが、世の中のスピードの速さだとか若い人のアンテナの高さだとか考えると、そういうスキムで進めるのも面白いと思う。</p>
委員	<p>クラウドファンディングは今コロナの状況で非常に盛り上がっていて、私たちの周りでも多い。そこに焦点を当てるのはいいが、私たちが寄附する時にまずはそのバックボーンは何なのか、非常に難しいところ。飲食店が手を挙げればそこにつぎ込むだけだが、全くの他人がそこにつぎ込むことは非常に難しい。今コロナで大変で、助けてください助けてくださいとたくさん手が挙げられているところ、そんな中でバックボーンを吉川市が出来るのか銀行が出来るのかそういう問題になってくる。どこの事業体がそれを主導してやっていくのか、それで毎回堂々巡りになっていくところ。</p>
委員	<p>困りごととは何かということ。先ほどの話しは、例えば吉川市を引っ張って人間を呼び込むためにどうしようという発想だが、今の話し</p>

<p>委員</p>	<p>はコロナでどうしようという人たちにどうしようというところだが、クラウドファンディングはあくまでツールであって、困りごとは何かということを確認にしてうち手を考えるということがまずあると思う。</p> <p>クラウドファンディングでどこか募集しているとあったときに、SDGs 債ってあると思うが、小学校に対して寄付をするということを実行したが、それを市内の中学校だから入れるということではなくクラウドファンディングに入れるということは可能なのか。SDGs 債の枠組みとして。資金の受け皿としてこのクラウドファンディングだという感じに。SDGs 債は小学校・中学校って枠組みにあったと思うが、逆にそれをクラウドファンディングに入れる形が出来るのだろうか。</p>
<p>委員</p>	<p>クラウドファンディングとは、インターネットでこういう事業やります、こういう試みやりますのでお金を集めますというものに対して、それに賛同している方たちが投資するというもの。</p>
<p>委員</p>	<p>それはわかっている。それは事業者が望むなら吉川市がバックボーンにあるのでそのクラウドファンディングに私はSDGs 債に寄付するからそれをそのクラウドファンディングに入れたいんだということが出来ないかということ。</p>
<p>委員</p>	<p>クラウドファンディングに寄付するSDGs 債ということ。制度的には理屈としては成り立つと思うが、今ある制度は小学校の体躯用具を購入するなどになっている。</p>
<p>委員</p>	<p>お金を管理することに市が主体となることは難しいという以前の話しがあったが、枠組みとして事業者の団体が主体となったときに市はどんな応援が出来るのか。クラウドファンディングが立ち上がった</p>

	<p>時に市はどんなヘルプが出来るのか。市が難しいとなったら、私たち団体が主体となるか銀行になるか、どちらかしかないと思う。</p>
委員	<p>資金の管理はクラウドファンディング事業者がするもの。</p>
委員	<p>私たち団体が受け皿になるしかないのか。</p>
委員	<p>受け皿とはどんな受け皿。なにを受ける受け皿か。</p>
委員	<p>事業の資金を受ける受け皿を作っておかないと、各団体が勝手に管理するということになる。それでは問題が起こると思う。1団体だけが管理するのでは市も入れにくいだろうし、会社なのか社団法人なのか受け皿がないとお金を入れるということがしづらい。信用性に欠けると思う。</p>
委員	<p>それはクラウドファンディング事業者がノウハウを持っているのでは。受け皿のノウハウ持っていて、こんなこと考えていてどういう言う受け皿がいいか相談すれば答えが出るのでは。</p>
市長	<p>市としてはそれを子どもたちに広報していくことと、選抜が必要になるので選抜の舞台とかでサポートすることは出来ると思う。市がお金を集めるだとか、管理していくことはハードル高い。例えば個々のメンバーが任意団体を立ち上げてクラウドファンディングしますと言ったときに、こういう子どもたちのためにお金を集めますといったところは出来るのか。任意団体でも。</p>
委員	<p>理屈では出来ると思う。匿名組合でやっているという話しも聞いたことがある。</p>
市長	<p>そこにお金が集まる、子どもたちを募集して選抜するという流れに</p>

委員	<p>なる感じか。</p> <p>そのあたりのコーディネートはクラウドファンディングになってくるのだと思う。</p>
市長	<p>そのあたりもう少し調べてみる。今日結論は出ないことなので。</p>
委員	<p>クラウドファンディング事業者にあたってみるともう少しわかってくると思う。</p> <p>(5) その他 資料を確認してもらうことで省略。</p>
市長	<p>市長あいさつ</p> <p>長時間にわたりおつかれさまでした。ありがとうございます。先ほど会長からお叱りをいただきましたが、決してないがしろにしたわけではありません。コロナで右往左往している中でもアンケート等をはじめ事業者の皆さんにお話し聞かせていただいた結果、第1次補正予算を作らせていただいた。けれど今後は今いただいたご意見の通り、産業振興会議の議題も含めて相談させていただいた中で、次の日程も決めていく。また、コロナ第2波、第3波となったときに、リモートなりで皆さんと意見交換できる体制を立ち上げて、皆さんの意見をいただきたいと思う。一つ確認したいのは私は決して皆さんを各団体の代表として意見を取りまとめて出てきていただきたいとは思ってないということ。最初にこの会議を立ち上げたときの意図は、そういったところに埋没しないとんがった人たちでどんどん戦略的なことを考えていく会議にしたいということなので、皆さんにいろんな現場に行って情報を集めてきてほしいというよりも、皆さんの高いアンテナでキャッチしたものをこの会議でぶつけていただきたいと思っている。出来るだけ幅広く丁寧に公平公正な情報収集は、この商工課</p>

が事務局として商工会であったり青年会議所であったりの団体に対して行ってゆくので、皆さんからはぜひひとんがった意見、厳しい意見をいただいて、吉川市ちょっと先駆的なことをやってるなというところに最終的には持っていきたいなと思います。今日いただいたご意見を踏まえてしっかり進めていきたいと考えている。

6. 閉会

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和2年 7月22日

署名委員 鈴木 努（自署）

署名委員 生田 貴之（自署）